

平成 30 年 9 月 15 日（土） 三條新聞 弥彦村議会 全員協議会

本多隆峰の「理由にならない開き直り発言」 有口無行

仮設観覧席について「もったいないのであれば就任した年にすぐやめればよかった。3 年も立っている。それを理由付けにするのであれば本来の話ではない」と批判した。これに対し、小林村長は就任当初から「無駄使い」と指摘してきたことを説明し、「今の所長にも何とかしろと言って、いろいろな事情があって、ようやく出来た。こんな利益供与を疑われるようなことはやめざるを得ない。よく今まで認めていた。逆にお聞きしたい」と反論した。

三條新聞 全文

開会のあいさつで、小林村長は初めに競輪特別委員会の質疑を振り返って、本多啓三氏を徹底的に批判。プロポーザルを含む随意契約は入札のような法的規定がないとして「一般住宅にある、看板も出ていない、大丈夫か、不安だという話をしたが、これは契約そのものについての一番の責任者をやった議員の発言とは思えない。随意契約と一般競争入札が違うのは当然ご存じのはず。それを分かっておきながらああいう質問をすることは大変不服であり、公の場ではっきりさせたい」と、大谷良孝前村長時代に総務課長、副村長を務めた本多啓三氏を批判した。

昨年から動いているという発言に対して、小林村長は、今年二月におもてなし広場のコンサルタントとしてフードビジネスクリニック代表の本間貞氏と覚書を締結し、四月には弥彦村全体の活性化、競輪場のリニューアルについてもコンサルティング業務の覚書を結んだことを説明。「いよいよ弥彦競輪場の改修に動きますので、知識をお持ちの方がいたら紹介してくださいということで、プラス・ワン・プランニングを紹介された」として、プラス・ワン・プランニングに参加を打診していたことを明らかにした。

その上で「四月までこの会社があることさえ知らなかった。本間先生とお会いしたのは今年の二月。昨年からの動きようがありっこない」と発言を全面否定し、「言われなき中傷」と批判した。

この日の全員協議会についても当初、議会からは非公開の議員懇談会を提案されたことを明らかにし、「議会は弁明の機会さえも公の場で与えないのか。憤りを感じる」。

さらに、仮設観覧席の工事は十年以上にわたって同じ業者が落札、施行していることを指摘し、毎年同じ資材を使って、同じ調達価格を含めた落札価格で行うのは村業者に対する利益供与と言われても仕方がない」と仮設観覧席の入札を批判した。

プラス・ワン・プランニングの高井氏は十数年前まで内装関係の会社に勤務していたが、55歳で早期退職し、独立開業したことを説明。事務所については「実家に一室を設けて事務所としている。表札がないという指摘だが、商売上の性質上、看板を掲げなくてもやれる」と、本多氏の指摘に答えた。

これまでの業績では商業施設関係をメインとして、新潟駅南のプラーカ、古町のラフォーレ原宿、新潟競馬場の飲食ゾーンなどを手がけたことを紹介。今回のプロポーザルについては「単に新築物件を提案するだけでなく、競輪場らしくない競輪場をつくろうと、観光ゾーンとして新しい客層を取り込める施設づくりをしたいとテーマをいただき、それなら出番があるのではないかと提案した」と述べた。

競輪特別委員会では、プラス・ワン・プランニングに加えて二社が参加するという説明があったが、共同企業体ではなく、委託先はあくまでプラス・ワン・プランニングとして「私が全体の構想を出しながら、具体的な建築、具体的なパースとかを役割分担して進めている」と述べた。

本多啓三氏は、過去5年間の業績報告では29年、30年には該当がなく、記載のある物件についても工期が短いことを指摘し、「この資料からみると、高い技術と豊富な経験というのはどうかなという懸念がある」と質問。高井代表は、記載しているのは申請義務のある建築確認申請が要するもののみとして、「店舗として新築する場合、業務報告として掲載しているが、企画開発は掲載していない」と説明した。

今回のプロポーザルは6月22日から29日まで参加を受け付け、7月4日にプロポーザルを実施した。建築設計士でもある本多隆峰氏「22日からプロポーザルまで14日くらい。その間に現場見ないとならないし、よくできたと思う。一般のプロポーザルでは30日くらい。半月でできる話ではない」と質問した。

高井氏は面積などの仕様が示されていたため間に合ったと説明したが、本多隆峰氏はプロポーザルの参加が一社しかなかったこと、補助金が考慮されていないことなどに疑念を示し、仮説観覧席についても「もったいないのであれば就任した年にすぐやればよかった。3年も立っている。それを理由付けにするのであれば本来の話ではない」と批判した。

小林村長は就任当初から「無駄使い」と指摘してきたことを説明し、「今の所長にも何とかしろと言って、いろいろな事情があって、ようやく出来た。こんな利益供与を疑われるようなことはやめざるを得ない。よく今まで認めていた。逆にお聞きしたい」と反論した。

本多啓三氏はさらに5月に高井氏が弥彦競輪場を訪れている事を指摘し、「前段で動いていた。おかしいじゃないかという思いで聞いている。実際問題、いろいろ協力いただいたも、こんな短期間でこれだけのものは無理」と質問した。

それに対して、小林村長は開会のあいさつで述べたとおり、本間氏からプラス・ワン・プ

ンニングを紹介されたことを改めて説明。「一番大事なのは新しい弥彦競輪場を作るためには、どういういいアイデアが出るかがすべて。だからお願いをしている。多分、所長のところに行ったと思う。当たり前の話。ただ昨年から動いているのは嘘っぱち。動いていたとしたら4月以降。それは私がコンサルタントにお願いしたから。どこがおかしいか」と猛反発した。

高井氏に対する質疑は 11 時頃終了。このあと競輪事業の収支計画書について説明を聞き、全員協議会は 11 時ころ終わった。

競輪事業特別会計補正予算は9月定例会最終日の18日の本会議で採択する。

競輪特別委員会では賛成5，反対4の賛成多数で可決しており、本会議でも可決する見通しとなっている。

*注 プロポーザルの応募業者は、プラス・ワン・プランニングの他に一社あったが辞退した。